

# セイコーエプソン株式会社

契約の種類： アニュアルレビュー

日付： 2021年7月8日

担当者：

Wakako Mizuta, wakako.mizuta@sustainalytics.com, (+81) 3 4571 2343

Marie Toyama, marie.toyama@sustainalytics.com, (+81) 3 4571 2343

## はじめに

2020年7月、セイコーエプソン株式会社株式会社（以下、「セイコーエプソン」）は、1) 高環境効率商品、環境適応商品、環境に配慮した生産技術およびプロセス、及び 2) 再生可能エネルギーに関連するプロジェクトへのファイナンス又はリファイナンスを目的とする3つのグリーンボンド（3年債100億円、5年債400億円、10年債200億円）を発行しました（以下、「グリーンボンド」）。2021年6月、セイコーエプソンはサステナリティクスに対して、グリーンボンドを通して資金の充当を受けたプロジェクトがセイコーエプソングリーンボンドフレームワーク（以下、「フレームワーク」）<sup>1</sup>で設定された資金使途のクライテリアやレポーティングの指標を満たしているかについて評価を委託しました。

## 評価基準

サステナリティクスは、以下の要件について、2021年3月31日時点で調達資金の充当を受けたプロジェクトを評価しました。

1. フレームワークで設定された調達資金の使途及び適格クライテリアとの適合
2. フレームワークで設定された各資金使途クライテリアに対する主要業績評価指標（KPI）に関する報告

表1に調達資金の使途と適格クライテリア、及び関連するKPIを示します。

表1：調達資金の使途、適格クライテリア及び主要業績評価指標（KPI）

| 調達資金の使途                              | 適格クライテリア   | KPI  |
|--------------------------------------|--|--|
| 1) 高環境効率商品、環境適応商品、環境に配慮した生産技術およびプロセス | <p>他社製品比較で大幅なエネルギー効率（オフィス向け高速ラインインクジェット複合機は他社製品比較で消費電力が約1/8、商業・産業向け捺染プリンターはアナログ捺染の生産工程が1.5カ月から2カ月に対して、3日から2週間に短縮、大容量インクタンクプリンターは他社製品比較で消費電力が約1/10）をもたらす複合機・プリンターの製造及び/又は研究開発に関する下記の費用。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• インクジェットプリンターの中核部品の製造及び研究開発を行う広丘事業所（9号館）の新棟新設費用〈リファイナンス〉</li> <li>• 商業・産業用大型印刷機及びデジタル捺染の製造及び研究開発を行う広丘事業所（イノベーションセンターB棟）の新棟新設費用〈新規〉</li> </ul> | <p>環境改善効果として以下のインパクト・レポーティングを予定しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 事業所内で製造した製品の環境性能と、出荷台数ベースでのCO2排出削減量（t-CO2）（推定値）</li> <li>• 太陽光発電を含む再生可能エネルギーの購入量（kWh）とCO2削減効果（t-CO2）</li> <li>• 研究結果論文 等</li> </ul> |

<sup>1</sup> セイコーエプソングリーンボンドフレームワークの概要: <https://www.sustainalytics.com/corporate-solutions/sustainable-finance-and-lending/published-projects/project/seiko-epson-corporation/seiko-epson-corporation-green-bond-second-party-opinion-japanese/seiko-epson-corporation-green-bond-second-party-opinion-11122019-japanese-pdf>

|                     |  |  |
|---------------------|--|--|
|                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>• インクジェットプリンターの製造を行うフィリピン製造子会社の工場増設費用〈リファイナンス〉</li> <li>• オフィス向け高速ラインインクジェット複合機の生産設備及び研究開発費用〈新規/リファイナンス〉</li> <li>• 商業・産業プリンターの生産設備及び研究開発費用〈新規/リファイナンス〉</li> <li>• インクジェットプリンター及び中核部品「インクジェットヘッド」の生産設備及び研究開発費用〈新規/リファイナンス〉</li> </ul> <p>水を使わずに新たな紙を生産する紙再生技術 PaperLab 及びドライファイバーテクノロジーの製造及び研究開発に関する費用（新規/リファイナンス）。</p> |  |
| <p>2) 再生可能エネルギー</p> | <p>2025 年までに温室効果ガス（GHG）排出量を 19%削減するという目標に向けて推進する、事業拠点における再生可能エネルギーの導入拡大に関する下記費用。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 再生可能エネルギー由来の電力の購入費用〈新規/リファイナンス〉</li> </ul>   |  |

## 発行体の責任

セイコーエプソンは、プロジェクトの説明、充当額、プロジェクトによるインパクトを含め、調達資金の充当を受けたプロジェクトの詳細に関する正確な情報及び文書を提供する責任を負います。

## 独立性と品質管理

投資家に環境・社会・ガバナンス（ESG）とコーポレート・ガバナンスに関する調査・格付けを提供するプロバイダとして業界をけん引するサステイナリティクスは、セイコーエプソンのグリーンボンドによる調達資金の用途を検証しました。本契約の一環として、同社のフレームワークとの適合性の確認のため、セイコーエプソンの従業員からの文書の収集及び確認を行いました。

サステイナリティクスは、調査にあたって、対象プロジェクトに関してセイコーエプソンから提示された情報と事実に依拠しています。セイコーエプソンが不正確又は不完全なデータを提供したことにより、本文書で示した見解、調査結果、結論が正確性を欠く場合、サステイナリティクスはいかなる責任も負いません。

サステイナリティクスは、評価プロセスにおいて最高の品質と厳密さを確保するためにあらゆる努力をし、審査結果の評価にあたっては社内のサステナビリティ・ボンド・レビュー委員会（Sustainability Bonds Review Committee）が監督を行いました。

## 結論

限定的保証プロセスに基づき検討した結果<sup>2</sup>、重要な側面において、セイコーエプソンのグリーンボンドによる調達資金の充当を受けたプロジェクトが、フレームワークで規定された調達資金の用途及びレポーティングクライテリアに適合しないと判断すべき事実は認められませんでした。但し、サステナリティクスは、表2の調査結果の詳細において記載している通り、資金用途やインパクト・レポーティングに係る情報の提示や開示の強化を推奨します。セイコーエプソンは、サステナリティクスに対し、グリーンボンドの調達資金が2021年3月31日時点で全額充当されたことを開示しました。

## 調査結果の詳細

表2：調査結果の詳細

| 適格クライテリア   | 調査手順  | 調査結果   | 特定された過失または例外 |
|------------|---|--|--------------|
| 資金用途クライテリア | 2021年3月31日時点でグリーンボンドによる調達資金を充当されたプロジェクトを対象に、フレームワーク及び上の表1に示されている資金用途クライテリアとの適合性を検証。 | 審査したすべてのプロジェクトは資金用途クライテリアに適合していました。但し、資金用途に含まれている「インクジェットプリンターの製造を行うフィリピン製造子会社の工場増設費用のリファイナンス」のルックバック期間については、支出を実行した月単位での確認となっています。また、セイコーエプソンは資金用途となった事業所で製造された「高速ラインインクジェット複合機」、「オフィス向け大容量インクパック搭載モデル」、及び「大容量インクタンクモデルプリンター」の環境性能について、細部の仕様が異なる類似機種のエネルギー性能は同じであることを前提に、各代表機種のエネルギー効率に係る調査結果のみを提示しました。サステナリティクスは、セイコーエプソンによる説明を認識しているものの、透明性の向上に向けて、同社が資金用途に関連する個別機種毎の定量的データを提示することを推奨します。更に、「高速ラインインクジェット複合機」及び「オフィス向け大容量インクパック搭載モデル」については、適格クライテリアにおいて、他社製品比較での消費電力の削減率をそれぞれ約1/8（約88%）と約1/10（約90%）を定めていた一方で、本レビューで確認した調査結果は、それぞれ当該値を下回る、約80%及び約70%となりました。差異の理由について、セイコーエプソンは、フレームワークの策定時（2019年11月）より、同社、他社共に製品性能が更新されたことを説明しており、サステナリティクスは、同 | なし           |

<sup>2</sup> サステナリティクスの限定保証プロセスには、発行体の提供する、調達資金の充当を受けているプロジェクトの詳細に関する文書（プロジェクトの説明、充当額、プロジェクトによるインパクトなど）の調査が含まれます。発行体には正確な情報を提供する責任があります。サステナリティクスはプロジェクトの現地調査は実施していません。

|                           |  |  |    |
|---------------------------|--|--|----|
|                           |  | 説明を踏まえ、又、本レビューで確認した消費電力の削減率についても、本フレームワークで同社が約束している大幅なエネルギー効率をもたらすことが確認されたことから、同差異は許容範囲であると考えます。 |    |
| <b>レポートिंगク<br/>ライテリア</b> | 2021年3月31日時点でグリーンボンドによる調達資金を充当されたプロジェクトを対象に、プロジェクトによるインパクトがフレームワーク及び上の表1に示されているKPIと適合する形で報告されたかを検証。報告されたKPIの一覧は参考資料2を参照。 | KPIに含まれる「研究結果論文」については開示されていませんが、審査したすべてのプロジェクトにおいて、関連するKPIについて一つ以上報告されていました。                     | なし |

## 参考資料

### 参考資料 1：審査対象のプロジェクトカテゴリー一覧

| 調達資金の用途の<br>カテゴリー  | サブカテゴリー   | プロジェクト<br>(製品)                  | 製品の環境性能   | リファイナ<br>ンスプロジ<br>ェクトのル<br>ックバック<br>期間            | 調達資金の<br>充当額<br>(億円) |
|--|---|---------------------------------|---|---|----------------------|
| 1) 高環境効率<br>商品、環境<br>適応商品、<br>環境に配慮<br>した生産技<br>術およびプ<br>ロセス | インクジェットプリンター<br>の中核部品の製造及び研究<br>開発を行う広丘事業所（9<br>号館）の新棟新設費用のリ<br>ファイナンス                              | (a)高速ラインイン<br>クジェット複合機          | 代表機種 LX-6050M と他社<br>製品の平均値を比較した試験<br>において、年間消費電力量が<br>約 80%削減されたことを確<br>認 <sup>3</sup> 。                               | 発行から遡<br>って 3 年以<br>内に実行さ<br>れた支出で<br>あることを<br>確認 | 250                  |
|  |   | (b)オフィス向け大<br>容量インクパック<br>搭載モデル | 代表機種 PX-M7090FX と他<br>社製品の平均値を比較した試<br>験において、年間消費電力量<br>が約 70%削減されたことを<br>確認 <sup>4</sup> 。                             |   |                      |
|  |   | (c) 大容量インク<br>タンクモデルプリン<br>ター   | 代表機種 EW-5850/L6570 シ<br>リーズ及び ET-5800/L6550<br>シリーズと他社製品の平均値<br>と比較し、最大電力消費量が<br>それぞれ約 94%削減された<br>ことを確認 <sup>5</sup> 。 |   |                      |
|  | 商業・産業用大型印刷機及<br>びデジタル捺染の製造及び<br>研究開発を行う広丘事業所<br>(イノベーションセンタ<br>ー B 棟)の新棟新設に関する<br>新規支出及びリファイナ<br>ンス | (d) デジタル捺染機                     | 従来のアナログ捺染と比べ、<br>印刷工程が短く（1.5～2 か<br>月を 3 日～2 週間に短縮）、<br>刷版が不要なため、エネルギ<br>ーや水の消費を減らすことが<br>できることを確認 <sup>3</sup> 。       | 発行から遡<br>って 3 年以<br>内に実行さ<br>れた支出で<br>あることを<br>確認 | 150                  |

<sup>3</sup> セイコーエプソン株式会社、「お客様の元での環境貢献」<https://www.epson.jp/SR/environment/products/customers.htm>

<sup>4</sup> セイコーエプソンは次の前提条件をサステナビリティに共有しました。「セイコーエプソンの委託による Keypoint Intelligence 社のテストデータです。PX-M7080FX は、海外同等品である Epson WorkForce Enterprise WF-C879R(25 枚/分)の試験結果。比較対象は、「IDC's Worldwide Quarterly Hardcopy Peripherals Tracker 2020Q3(2018Q3-2019Q2), Units Share by Company」における 400 ドル以上のカラーレーザー複合機 20～39 枚/分クラスの上位 2 モデル、さらに PX-M7090FX と PX-M7080FX の同スピード帯のインクジェットプリンターからセイコーエプソンにて選定。各機器のデフォルト設定で、Keypoint Intelligence 社の標準的なエネルギー消費試験方法を用いてテストを行い、平日の印刷作業量は 2x4 時間+スリープ・スタンバイモード 16 時間、週末のエネルギー使用はスリープ・スタンバイモード 48 時間に基づいて算出。各 4 時間の印刷時間には、合計 69 ページのテストパターン (DOC、XLS、PPT、HTML、PDF および Outlook メール) を 6 回印刷しました。」

<sup>5</sup> セイコーエプソンは次の前提条件をサステナビリティに共有しました。「比較モデルは、IDC Worldwide Quarterly Hardcopy Peripherals Tracker 2019Q3 データ CY2018Q4-CY2019Q3 結果に掲載されている A4 カラーレーザープリンター (21-30ppm クラス) のトップセラー50%をアカウントから選択しました。各モデルの TEC 値と最大消費電力は、第三者試験機関 (ENERGY STAR®ラボ) で試験し、最大消費電力を比較しました。」

|   |                         |  |  |     |
|---|-------------------------|--|--|-----|
| インクジェットプリンターの製造を行うフィリピン製造子会社の工場増設費用のリファイナンス               | (b)オフィス向け大容量インクパック搭載モデル | 代表機種 PX-M7090FX と他社製品の平均値を比較した試験において、年間消費電力量が約 70%削減されたことを確認 <sup>4</sup> 。                          | 発行から遡って 3 年以内に実行された支出であることを確認 <sup>6</sup>   | 140 |
|   | (c) 大容量インクタンクモデルプリンタ    | 代表機種 ET-5850/L6570 シリーズ及び ET-5800/L6550 シリーズと他社製品の平均値と比較し、最大電力消費量がそれぞれ約 94%削減されたことを確認 <sup>5</sup> 。 |  |     |
| オフィス向け高速ラインインクジェット複合機の生産設備及び研究開発に係る新規支出及びリファイナンス          | (a)高速ラインインクジェット複合機      | 代表機種 LX-6050M と他社製品の平均値を比較した試験において、年間消費電力量が約 80%削減されたことを確認 <sup>3</sup>                              | 全てグリーンボンド発行後、又は発行から遡って 3 年以内に実行された支出であることを確認 | 30  |
| 商業・産業プリンターの生産設備及び研究開発に係る新規支出及びリファイナンス                     | (d) デジタル捺染機             | 従来のアナログ捺染と比べ、印刷工程が短く（1.5~2 か月を 3 日~2 週間に短縮）、刷版が不要なため、エネルギーや水の消費を減らすことができることを確認 <sup>3</sup>          | 全てグリーンボンド発行後、又は発行から遡って 3 年以内に実行された支出であることを確認 | 30  |
| インクジェットプリンター及び中核部品「インクジェットヘッド」の生産設備及び研究開発に係る新規支出及びリファイナンス | (b)オフィス向け大容量インクパック搭載モデル | 代表機種 PX-M7090FX と他社製品の平均値を比較した試験において、年間消費電力量が約 70%削減されたことを確認 <sup>4</sup>                            | 全てグリーンボンド発行後、又は発行から遡って 3 年以内に実行された支出であることを確認 | 78  |
|   | (c) 大容量インクタンクモデルプリンタ    | 代表機種 ET-5850/L6570 シリーズ及び ET-5800/L6550 シリーズと他社製品の平均値と比較し、最大電力消費量がそれぞれ約 94%削減されたことを確認 <sup>5</sup> 。 |  |     |
| 水を使わずに新たな紙を生産する紙再生技術 PaperLab 及びドライファイバーテクノロジーの製造         | (e)PaperLab             | 同質量の市販の紙を製紙する場合と比べ、水使用量が 1/100 程度であることを確認 <sup>3</sup>   | 全てグリーンボンド発行後、又は発行から遡って 3 年以                  | 10  |

<sup>6</sup> サステナビリティクスの評価の詳細については、P3 の表 2 をご参照ください。

|              |                             |   |   |  |     |
|--------------|-----------------------------|---|---|--|-----|
|              | 及び研究開発に係る新規支出及びリファイナンス      |   |   | 内に実行された支出であることを確認                          |     |
| 2) 再生可能エネルギー | 事業拠点における再生可能エネルギー由来の電力の購入費用 | — | — | 全てグリーンボンド発行後、又は発行から遡って3年以内に実行された支出であることを確認 | 12  |
| 合計：          |                             |   |   |  | 700 |

## 参考資料 2 : プロジェクトのインパクト一覧

| 調達資金の用途<br>の 카테고리                    | サブカテゴリー   | KPI  |  |   |
|--------------------------------------|---|--|--|---|
|                                      |   | 事業所内で製造した製品の環境性能 <sup>7</sup>  | 出荷台数ベースでの CO2 排出削減量 <sup>8</sup> (推定値) | 太陽光発電を含む再生可能エネルギーの購入量及び CO2 削減効果 <sup>9</sup> |
| 1) 高環境効率商品、環境適応商品、環境に配慮した生産技術およびプロセス | インクジェットプリンターの中核部品の製造及び研究開発を行う広丘事業所 (9 号館) の新棟新設費用のリファイナンス | <p>(a)高速ラインインクジェット複合機 (LX-6050M シリーズ)</p> <p>印字プロセスに熱を使わない LX シリーズは、レーザープリンターに比べて圧倒的に消費電力が少なく、外部評価機関による性能比較では、他社カラーレーザー複合機に比べ、LX-6050M は年間の消費電力量を平均で約 80%削減できるとの結果が出ています。</p> <p>(b)オフィス向け大容量インクパック搭載モデル (PX-M7090FX)</p> <p>大容量インクパックにより、消耗品を交換せずにモノクロ 8 万 6,000 枚、カラー 5 万枚の印刷を実現します。同数印刷時にトナーカートリッジや感光体などを大量に使用するレーザープリンターに比べ、地球温暖化負荷 (CO2 換算) を約 92%削減できます。印刷時に熱を使わないインクジェットプリンターは、レーザープリンターに比べて低消費電力です。</p> <p>(c)大容量インクタンクモデルプリンター (EW-M670FT/FTW)</p> <p>大容量インクボトルによるインク補充で、消耗品や包装材に関わる資源消費量の削減により、環境負荷を低減します。従来のカートリッジ方式 (WF-2630 シリーズ) と比較して、5 万ページ印刷時の消耗品の CO2 排出量を約 84%削減しました。印刷時に熱を使わないインクジェットプリンターで省エネルギーに貢献します。</p> | 129,814 (t-CO2) <sup>10</sup>          | —   |
|                                      | 商業・産業用大型印刷機及びデジタル捺染の製造                                    | (d)デジタル捺染機 (Monna Lisa Evo Tre)  | 117,387(t-CO2) <sup>11</sup>           | —   |

<sup>7</sup> セイコーエプソン株式会社、「お客様の元での環境貢献」 <https://www.epson.jp/SR/environment/products/customers.htm>

セイコーエプソン株式会社、「環境配慮型商品」 <https://www.epson.jp/SR/environment/products/products.htm>

<sup>8</sup> 2020 年度 (2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日) の出荷台数に基づく推定値。

<sup>9</sup> 2020 年度 (2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日) 実績。

<sup>10</sup> 同値は、グリーンボンドによる調達資金が充当された製品の CO2 排出削減量ではなく、セイコーエプソン事業所内で製造された全てのビジネスインクジェットプリンター製品による CO2 排出削減量。

<sup>11</sup> デジタル捺染機による CO2 排出削減量 113,608 (t-CO2) とデジタル捺染機 (顔料) による CO2 排出削減量 3,779 (t-CO2) の合算値。

|              |   |  |                               |   |
|--------------|---|--|-------------------------------|---|
|              | 及び研究開発を行う広丘事業所（イノベーションセンターB棟）の新棟新設に関する新規支出及びリファイナンス                     | デジタル捺染は、従来のアナログ捺染と比べて、印刷工程が短く（1.5～2か月を3日～2週間に短縮）、刷版が不要なため、エネルギーや水の消費を減らすことができ、廃棄インクも少ない印刷プロセスです。小ロット多品種生産に適し、生産から販売までの在庫ロスの最小化を実現します。  |                               |   |
|              | インクジェットプリンターの製造を行うフィリピン製造子会社の工場増設費用のリファイナンス                             | 上記、(b)、(c)参照   | 129,814 (t-CO2) <sub>10</sub> | —   |
|              | オフィス向け高速ラインインクジェット複合機の生産設備及び研究開発に係る新規支出及びリファイナンス                        | 上記、(a)参照   | 129,814 (t-CO2) <sub>10</sub> | —   |
|              | 商業・産業プリンターの生産設備及び研究開発に係る新規支出及びリファイナンス                                   | 上記(d)参照  | 117,387(t-CO2) <sup>11</sup>  | —   |
|              | インクジェットプリンター及び中核部品「インクジェットヘッド」の生産設備及び研究開発に係る新規支出及びリファイナンス               | 上記、(b)、(c)参照   | 129,814 (t-CO2) <sub>10</sub> | —   |
|              | 水を使わずに新たな紙を生産する紙再生技術 PaperLab 及びドライファイバーテクノロジーの製造及び研究開発に係る新規支出及びリファイナンス | (e)PaperLab (A-8000)<br>A-8000 は同じ質量の市販の紙を製紙する場合と比べると、その水の使用量はわずか 1/100 程度です。また、A-8000 で作る紙の原料は 100%オフィス古紙であり、新たな木材を一切使用しません。オフィス内でのリサイクルが可能となり、同じ質量の紙を再生した場合、従来の紙再生プロセスよりもライフサイクル全体での CO2 排出を抑制します。 | —                             | —   |
| 2) 再生可能エネルギー | 事業拠点における再生可能エネルギー由来の電力の購入費用   | —  | —                             | 購入量：<br>156,091,636kWh<br>CO2 削減効果：<br>62,044 t-CO2 |

## 免責事項

© Sustainalytics 2021 無断複写・複製・転載を禁ず

本書に包含又は反映されている情報、手法及び意見は、サステイナリティクス及び／又はその第三者供給者の所有物（以下、「第三者データ」）であり、サステイナリティクスが開示した形式及びフォーマットによる場合又は適切な引用及び表示が確保される場合のみ第三者へ提供されます。これらは、情報提供のみを目的として提供されており、（1）製品又はプロジェクトの保証となるものではなく、（2）投資助言、財務助言又は目論見書となるものではなく、（3）有価証券の売買、プロジェクトの選択又は何らかの種類の商取引の実施の提案又は表示と解釈してはならず、（4）発行体の財務業績、金融債務又は信用力の評価を表明するものではなく、（5）いかなる募集開示にも組み込まれておらず、組み込んではありません。

これらは、発行体から提供された情報に基づいたものですので、これらの商品性、完全性、正確性、最新性又は特定目的適合性は保証されていません。情報及びデータは、現状有姿にて提供されており、それらの作成及び公表日時時点のサステイナリティクスの意見を反映しています。サステイナリティクスは、法律に明示的に要求されている場合を除き、いかなる方法であっても、本書に含まれた情報、データ又は意見の使用に起因する損害について一切責任を負いません。第三者の名称又は第三者データへの言及は、かかる第三者に所有権があることを適切に表示するためのものであり、その後援又は推奨を意味するものではありません。当社の第三者データ提供者のリスト及びこれら各者の利用規約は、当社のウェブサイトに掲載されています。詳しくは、<http://www.sustainalytics.com/legal-disclaimers> をご参照ください。

発行体は、自らが確約した内容の確実な遵守とその証明、履行及び監視について全責任を負います。

本書は日本語で作成されました。日本語版と翻訳版との間に矛盾もしくは不一致が生じた場合は日本語版が優先されるものとします。

## サステイナリティクス（モーニングスター・カンパニー）

サステイナリティクスは、モーニングスター・カンパニーであり、環境・社会・ガバナンス（ESG）とコーポレート・ガバナンスに関する調査、評価及び分析を行う独立系機関であり、責任投資（RI）戦略の策定と実施について世界中の投資家をサポートしています。ESG 及びコーポレート・ガバナンスに関する情報及び評価を投資プロセスに組み込んでいる、数百に及ぶ世界の主要な資産運用会社や年金基金を支援しています。また、多国籍企業や金融機関、各国政府を含む世界の主要な発行体に、グリーンボンド、ソーシャルボンド、サステナビリティボンドのフレームワークに対する信頼性の高いセカンドパーティ・オピニオンを提供しています。2020 年には、Climate Bonds Initiative により、3 年連続で「気候ボンドのレビューにおける最大の認証機関」に選ばれたほか、Environmental Finance 誌により、2 年連続で「最大の外部レビュー機関」に認定されました。詳しくは、[www.sustainalytics.com](http://www.sustainalytics.com) をご参照ください。

